



## 応募論文から

ガバナー賞

夢の実現に関して考えること

愛媛県立大洲高等学校 2年 後藤 つむぎ(SI 大洲 推薦)

私の夢は、「地域医療を支える医師」になることだ。周囲から勧められたわけではないのに、医師になりたいと思うようになったのはなぜだろう。

私は、早産のため未熟児で生まれた。生まれたらすぐに保育器に収容され体重が2,500グラムを超えるまで様々な治療を受けながら約2ヵ月間入院していた。母も妊娠初期から子宮頸管無力症という体質のため、妊娠を継続させるため出産まで入院して治療を続けた。現在の医療のおかげで、母と私が健康に生活できているのだ。

地方の医師不足が課題となっている。その地域の医療の中核となるべき公共医療機関から専門の診療科が次々に消えている。私が住む大洲市も例外ではない。市立病院から、かつて私と母を救ってくれた、産婦人科と小児科が閉鎖されて10年以上経つ。市内には、個人病院はたくさんある。しかしリスクの高い症状を持った患者は、県庁所在地の設備の整った大きな病院に行く。仕方がないことかもしれないが、患者にとって精神的にも、経済的にもしんどいことだと思う。地方で安心して生活していくためには、地域の公共の医療機関の人材の充実が不可欠であると考えます。夢である医師になることができたなら、私を育ててくれた地域で、地域の方々と触れ合いながら仕事がしたい。命を助けていただいた恩返しをしたいのだ。リスクの高い妊婦さんも安心して受診出来る病院が地域にあれば、少子化の歯止めにもなるはずと夢は広がっていく。

高校2年生となった今、漠然と抱いていた夢が、大学入試という現実として近付いてきている。日々の学習は大変だけれど、医学部合格の目標があるので、全力で取り組んでいる。

「志は高く。取り組みは地道に」新学期に担任の先生から頂いた言葉だ。英語を伸ばしたいので、4月から毎朝ラジオ英会話を聴いている。「諦めず努力を日々続けることができたなら夢は叶う。」と信じる。